

初めての国際会議に参加して

情報工学府情報システム専攻M1 野口 雄也



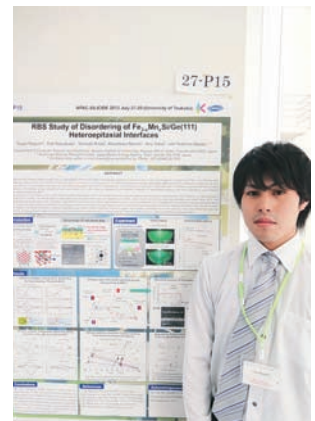
はじめに

私の所属する前田研究室では、シリコンを含むホイスラー合金強磁性体を用いたスピントロニクスへの応用の研究を行っています。スピントロニクスとは、電子のスピン状態とその変化を利用したエレクトロニクスのことであり、この分野の研究において、集積回路の低電力化、集積度の向上が大いに期待されています。2013年7月27日〜29日に、茨城県つくば市の筑波大学で開催された国際会議 APAC-SLICIDE 2013 に、今回参加しました。APAC-SLICIDE 2013 は、イギリス・ロシア・アメリカ・ドイツ・チェコ・スロ

バキア・ブラジル・シンガポール・中国・台湾など世界各国からシリサイド系の材料に関する研究を行っている著名な先生や研究者が参加する学会です。本研究室の前田佳均先生は、国際会議の副組織委員長をされており、ポスター発表で会議に参加する機会をいただくことになりました。会議には同じくM1の川久保君、平田君と一緒に参加しました。

国際会議

私は、「RBS Study of Disorder of Fe_{3-x}MnxSi/Ge(111) Heteroepitaxial Interfaces」と題して、日本原子力研究開発機構との連名で、ポスター発表を行いました。発表では、自分の英語力の無さを痛感することになりました。自分の言いたいことを表現しようとすると、語彙力がなくて言葉につまり、思うように表現できませんでした。しかし、会議の雰囲気はあたたかく、ポスターを見



発表の様子

に来てくださった先生から、説明の合間にも、研究や発表に対するアドバイスをいただき、非常に有意義な勉強をすることができました。

オーラル発表では、自分の研究に関連する発表もあり、今後の研究に対して、良い刺激になりました。本研究室の3人の発表は、学会賞

「Young Scientist Awards」の審査対象となっておりました。私は賞を逃しましたが、本研究室の川久保君が見事に賞を獲得しました。

晩餐会

28日の夜には、晩餐会が開かれました。会場では、羊肉のバーベキューがふるまわれ、ワインや黒ビールをいただくことができました。この晩餐会では、大阪大学、九州大学、筑波大学などの研究室の方と交流することができ、研究についての議論を

したり、将来についての話をしたりできて、非常に印象深かったです。また、前田先生からイギリス、サリー大学からいらつしゃった、Honeood 先生をご紹介いただきました。交流をさせていただきました。

最後に

国際会議に参加するにあたり、奨学金を援助してくださった明専会、並びに、研究のご指導をいただきました。国際会議参加の機会を与えてくださった前田先生、研究室の先輩方、M1、及びB4の皆様にご心より御礼申し上げます。



集合写真